

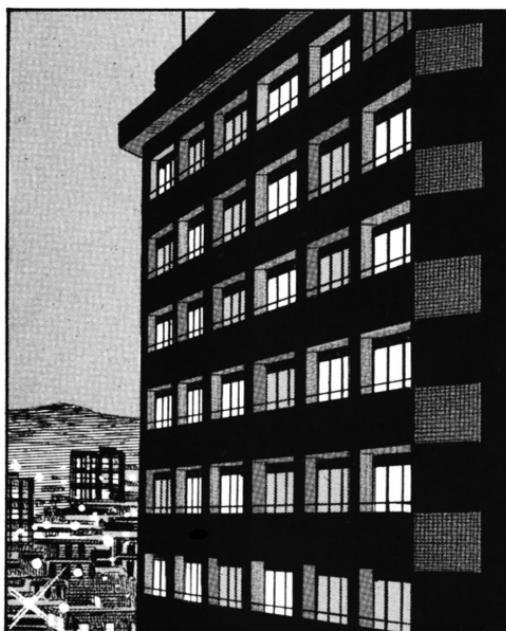


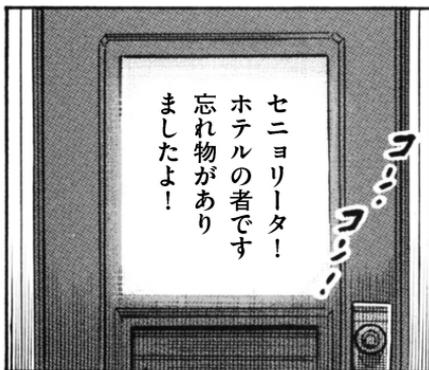
PART 6 安全対策はホテルの中でも

メキシコシティ——メキシコ——



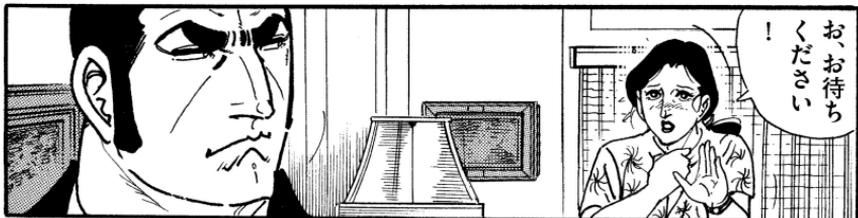
















部屋にいる時は
防犯チェーンを
掛け、相手を確認
してから、ドアを
開ける。
そんな事は常識だ。
それがわから
ない愚か者に
海外に来る
資格はない!

海外では、常に
危険と隣り合わせ
という自覚がなけ
れば、ならぬ。
ほんの少しの油断
が命取りになる
……



私がバカ
だった〜!



わ、私は海外で
ひとり旅をする
心構えができて
いなかった!



ありがとうございます
です。これからは
「たびレジ」にも
登録して慎重に、
行動する事にしま
す……



それがわかれば、
まだ、やり直す
事は可能……だ



では
……

タコスでも
食べに行くか
……



……
……



見知らぬ人の
……
……
お誘いは
お断りします!

6. 海外渡航中・海外赴任時の注意

(I) 空港での注意事項

(ア) ロビーの滞在時間は最小限に

一般的に空港のロビーは、出発・到着する乗客、出迎えの人、ショッピング客など、搭乗ゲートに比べて乗客以外の不特定多数の人が集まる場所です。犯罪者やテロリストから見れば、空港のロビーは犯行を行うには格好の場所だと考えることができます。

すり・置き引き犯にとってはターゲットが豊富であり、テロリストから見れば一度の犯行で多数の犠牲者を出すことが

できると言えます。したがって、空港を利用する際は速やかに搭乗手続きを済ませ、保安検査場を通過した後の搭乗ゲートで待機し、ロビーに滞在する時間を極力少なくすることが、危険を避ける基本の行動となります。

(イ) 不審者・不審物に注意する

既に指摘したとおり、空港は不特定多数の人が出入り可能であるという性質上、不審者や不審物への注意も必要です。もし不審者・不審物を見かけたら、すみやかにその場を離れ、可能であれば警備員や空港職員などに通報します。

(ウ) 出迎えの本人確認方法は事前に決
めておく

海外渡航・赴任で目的地の空港到着時
には、現地の従業員や旅行会社の手配し
た出迎えなどと待ち合わせる場合も多い
はです。ネームプレートに自分の名前
が書いてあれば、自分を待っていたと考
えるのが普通ですが、実は出迎え詐欺で
あったという場合や、そのまま誘拐され
てしまった事例も多数報告されています。
出迎えがある場合には、名前・年齢・特徴・
会社名など、間違いなく本人と確認がで
きる情報を事前に決めておき、身分証明
書の提示を求めるなどの安全対策が必要
です。特に出迎えが変更になった場合は、

その場で信用せず、必ず旅行会社や現地
連絡先に確認をとるくらいの用心深さが
必要です。

(エ) その他の注意事項

すり・置き引き等への対策、手荷物の
管理などは、海外旅行時に一般的に言わ
れている注意事項と変わりありません。
手荷物等は常に手を離さず、地面に置く
などの場合には足の間に挟むなど、盗ら
れてもすぐに分かるような準備をしてお
くことが重要です。また、知らないうち
に麻薬の運び屋にされる危険を避けるた
め、他人の荷物を預からないなど、海外
旅行時の注意事項を改めて見直しておき

ましよう。

(2) ホテルでの注意事項

ホテルでは、部屋のドアは常に施錠をし、必ずドアチェーンを使用します。来訪者があっても、すぐにはドアを開けず、相手の身元を確認することが重要です。仮に来訪者がホテルの従業員の制服を着ていたとしても、犯罪者が偽装している可能性もありますので、必ずフロントに確認します。

滞在中は部屋のカーテンを閉めておくことも安全対策の一環として有効です。カーテンを閉めておくことで、ホテル外

ホテルは……
お前の家では
ない……



で爆発テロ等が発生した際に、ガラスの飛散防止に役立ちます。また、在室・外出を分らないようにする効果もあるもので、有効な対策として検討すると良いでしょう。

また、ホテルのロビーに滞在する時間は最小限にするよう心がけます。空港のロビー同様ショップ・飲食店等、不特定多数の人が出入り可能であることが一般的であり、空港のロビー同様の危険が存在するためです。ロビーで待ち合わせなどをする場合も、出来るだけ時間に合わせてロビーに向かい、滞在時間を極力少なくするようにします。

(3) 外出・移動時の注意事項

(ア) パスポート

パスポートは海外における通行証であるとともに、日本人であることを証明する公的証明書です。したがって、管理は自ら行い十分に注意を払う必要があります。外出・移動時に提示を求められる場合がありますので、携帯する必要がありますが、国によってはコピーの提示でも可能な場合があります。事前に現地での必要性を確認し、外出時の扱い（持ち運ぶのか、コピーを持参し原本は安全な場所に保管するのか）を決めておくことが

重要です。

(イ) 外出予定の管理

業務の関係で顧客企業を訪問する、現地の視察などを行う時に、「行動を予知されない」ことは安全対策の基本中の基本です。外出予定等は必要最小限の範囲で共有し、情報管理に気を配ることが重要です。

(ウ) 見知らぬ人に声をかけられたら…

外出中に見知らぬ人から声をかけられた場合、原則として相手にしないようにします。海外では自分は「常に狙われて

いる」と考えることは、安全対策にとって有益です。たとえ声をかけてきた人の外見や物腰が信用できそうなものであっても、用心してやり過ぎることが自分の身を守ることにつながります。

(エ) その他の注意事項

その他、所持品に注意する、人気のないところ・暗いところ・夜間の外出等を避ける、多額の現金を持ち歩かない、貴重品等は分散して身に着ける、といった一般犯罪に対する海外旅行時の「常識」についても、改めて確認をしておきましょう。クレジットカードについては、日本では相当数を持つ人が多いようですが

長期で海外に滞在する場合は必要最小限（2枚程度）に整理して行くことをお勧めします。

（4） 危険を避ける行動

海外出張・赴任時の安全対策には、状況毎に注意すべき点が数多くありますが、危険を避けるためのより一般的な注意事項はどのようなものでしょうか。日本人がテロなどのターゲットとなる時代において、注意すべき点として次の3つの事項を意識する必要があります。

- ① 現地の宗教・風俗・法律などに照らして、不適切な行動を控える
- 諸外国においては、社会全体で

宗教が重要な役割を占めている国は少なくありません。そのような国では宗教行事や、宗教に関わる行動規範が大変重要な要素となっている場合もあります。宗教に対する侮辱、服装や飲食の規定違反等は厳しく罰せられたり、罰せられないまでも現地社会の反感を買うようなことにもなりかねません。

また、法律もその国独自の法体系となっており、例えば王室への不敬を罰するなど、日本には存在しない犯罪類型があることは注意すべき事項です。さらに、その国の文化的な観点からすると、日本では犯罪だと考えられないような

行動であっても、警察に通報されてしまう場合もあります。

海外渡航・赴任に当たっては、可能な限り現地の宗教・風俗・法律などの情報を集め、自分が適切な行動をとらないように、事前に心構えをしておくことが大切です。

② 現地の政治・社会・宗教上の行事を把握する

テロや騒乱のリスクは、選挙等の政治的行事、過去の大規模テロを含む歴史的事件の記念日、主要な宗教行事などに合わせて高まることがあります。

たとえば、選挙運動や投票等が行われている時期には、場合によっては抗議集会や支持者同士の衝突など、不測の事態に巻き込まれるリスクが高まります。また、キリスト教のクリスマスなどの宗教行事において、人の集まりを狙ったテロが行われたことがあります。さらにイスラム過激派の一部は、イスラム教徒にとって重要なラマダン月に合わせてテロを扇動する声明を出したこともあります。このように、渡航・赴任先の主要行事を事前に把握し、リスクを避ける行動を選ぶことは、安全対策を講じる上で非常に重要です。

③デモなどを避け人の大勢集まる場所では警戒を怠らない

デモなど、背景に意見・思想の対立などが存在する行動は、対抗するグループとの衝突が発生する可能性があるほか、デモ自体がテロのターゲットになる可能性があるため、避けることが必要です。日本人は人だかりに向かつていく傾向があるとも言われますので、意識して避けるようにします。

また、空港やホテルのロビーなどはリスクが高い、という点は既に指摘した通りですが、ショッピングセンター・劇場・フェスティバルなど、屋内外を問わず、不特

定多数の人が集まる場所は、同様にリスクが高いと認識する必要があります。近年では上記のような場所、いわゆるソフトターゲットを狙ったテロが頻発しています。そのような場所を利用する際は、常に用心を怠らず、避難ルートを確認するなど不測の事態が起きた時にどのように行動するかを想定しておくことが、もしもの時の運命を分けることとなります。

(5) 健康の維持・管理

海外渡航・赴任に当たっては、健康管理も重要な課題となります。特に気候条

件、時差、食習慣、ストレスなどによって体調を崩す可能性が高まりますので、日本で生活する以上に気を付けるべきです。バランスのとれた食事、十分な休養・睡眠、適切な運動は健康の維持・管理のための基本的な要素です。

家族が同行する場合には、精神面も含めた家族の健康にも留意する必要があります。特に赴任後半年や帰任前半半年など、慣れない環境でやるべきことに追われるような状態は疲労・ストレスの原因ともなり、体調を崩す可能性も高まります。渡航者・赴任者自身も同じ状況ではあるものの、できるだけ家族の様子にも気を配り、問題があれば予定の変更も含めて対策を行うことが大切です。

また、現地特有の感染症・風土病には注意が必要であり、発生や感染の状況等を普段から継続的な情報収集で把握することに努め、それぞれの性質に応じた対策を行います。

(6) 継続的な情報収集

現地の治安情勢は、様々な要因で予想もしない変化が生じることがあります。海外渡航中や短期滞在の場合でも、現地において普段から関連情報の収集を行い、安全対策を見直す努力が必要です。外務省の「たびレジ」は、海外安全情報や現地大使館・総領事館等からの安全情報をメールで配信する機能があり、移

動中でも最新の情報を得ることが可能です。たとえ滞在が短い期間であっても、用心深く安全対策に気を配ることが、自分の身を守るにつながります。

